



木産協第 4 回青年層交流会開催 「模擬団交」通じて交流を深める



2月22日～23日、東京で木産協第4回青年層交流会が開催され、全国から21人が参加し、「模擬団交」や夕食懇親会などを通じて交流が深められた。



交流会第1日目の部では、まず、木産協の西本議長は、「当交流会の主役は、お集まりの青年層の方々であり、木産協役員はそのサポート役であることを改めて確認したい。4回目を迎えた今回の交流会では、初めての試みとして『模擬団体交渉』を行う。団体交渉に参加したこと

ある方もない方もおられると思うが、今後、皆さん方が、各組織で、組合員の要望・期待を背負っての団体交渉というものに臨んでいく際に役立つようなことを学んでほしい。また、交流会日程全体を通じて、ここに集まった仲間の間でのコミュニケーション・交流をはかっていただき、これからの各地でのいろいろな取り組みに役立ててほしい」とあいさつした。

つづいて、「模擬団交」の部に移った。ここでは、参加者は、4つのグループ(木産協議長・副議長・事務局長による会社側〔社長+労務担当役員〕グループ、および、青年層参加者4～5人と三役以外の木産協役員1～2人で構成する労組側グループが3グループ)に分かれ、引き続き、各グループごとの30分間の打ち合わせに入った。

組合側グループは、木産協の2014春闘方針で確認された要求基準に基づき3つの具

体的要求を設定することとされ、その要求の設定、会社側の反論に耐えうる理論構築、また、グループ内での役割分担などについて、打ち合わせを行った。一方、会社側グループは、組合側の要求・交渉方法の予想、要求への回答・対応などについて打ち合わせした。

そして、各グループごとの打ち合わせ終了後、いよいよ、労組側 3 グループごとに、1 グループの時間を 20 分としての「団体交渉」が行われた。

各グループの「交渉」が全て終わった後には、再び、労組側の各グループごとに、自らの「交渉」を行って見ての、感想・反省点などについて、まとめの話し合いが行われ、その後には各グループごとにその内容の発表があった。それらの感想・反省点などとしては、「要求の際の突っ込み方に不足があった」、「賃上げ要求について会社側がある程度要求を受け入れた時点で、時間配分の問題もあり、ホッとしてしまったところがあった」、あるいは、「打ち合わせを通じて、他の会社の状況について知る機会も得たし、面白かった」といったものがあり、また、「この『会社』についての、必要な状況設定が不足していた」、「事前打ち合わせ時間が短かった」といった運営上の問題を指摘するものもあった。さらに、木産協役員からは、「日頃から組合員の声や職場の実態の把握に努めていないと、しっかり交渉できないことを改めて学ばされたのではないか」、「組合側の発言に対して、会社側がその揚げ足を取るような発言をしてきたところで、同じグループの仲間がフォローした場面があったが、こうしたところで、『交渉は皆でやるものだということ』や『必要な発言をすべきタイミングにしっかり発言することが大切なこと』などをさらに学ぶこととなったのではないか」、「各組合側グループとも、非組合員の多い非正規雇用労働者の問題を要求に取り入れていたのはよかったと思う」、あるいは、「65 歳定年制に係る要求が全くなかったが、まだ自分たちの問題としてとらえにくいのだろうか」といったコメントがあった。

そして、「模擬団交」の最後には、西本議長が「皆さんは、本日のこの場だけでも、言葉の発し方・強弱、視線の置き方なども含めて、団体交渉、ひいては、人とのコミュニケーションのはかり方について、さらに学んだものと思う。これを、今後、各々の会社・組合など

において役に立ってほしい」と今回の試みをまとめた。

また、1 日目の夜の、全体での夕食懇親会、さらには、2 日目のフィールドワークを通じて、参加者間のさらなる親睦がはかられた。

